

教育・保育施設等の利用状況（実績）

【R4・3月時点】

資料3-1

1. 施設類型毎利用定員及び実利用人数（市外児童含む）比較

区分	施設類型	施設数	①利用定員					②実利用人数（R4.3月時点）					利用定員との差（①-②）				
			1号	2・3号			1号	2・3号			1号	2・3号					
				0歳	1～2歳	3～5歳		0歳	1～2歳	3～5歳		0歳	1～2歳	3～5歳			
認可施設	幼稚園	1	180	0	0	0	0	157	0	0	0	0	23	0	0	0	0
	保育所	39	0	3,021	309	1,039	1,673	0	2,893	324	946	1,623	0	128	-15	93	50
	認定こども園	11	838	1,049	92	330	627	524	1,208	113	396	699	314	-159	-21	-66	-72
	地域型保育所	4	0	116	15	43	58	0	40	11	16	13	0	76	4	27	45
合計		55	1,018	4,186	416	1,412	2,358	681	4,141	448	1,358	2,335	337	45	-32	54	23

※1号は教育部門、2号は3歳以上の保育部門、3号は3歳未満の保育部門

2. 計画との比較

	1号	2号	3号		合計
	3～5歳	3～5歳	0歳	1・2歳	
①計画上の量の見込み（ニーズ量）	1,027人	2,124人	434人	1,414人	4,999人
②実利用人数	681人	2,335人	448人	1,358人	4,822人
計画との差（①-②）	346人	-211人	-14人	56人	177人

3. 計画の中間年見直しについて

（1）基本的な考え方

令和3年度における教育・保育給付認定区分ごとの「量の見込み」と「実績値」を比較し、10%以上の乖離がある場合は見直しが原則必要となる。（国定義）
 ※実績値/量の見込み ≤ 90% 又は 実績値/量の見込み ≥ 110% 「量の見込み」…必要利用定員総数 「実績値」…実入所者数計

（2）計画値と実数値の比較

1号認定 698人/1,027人=67.9% 2号認定 2,335人/2,124人=109.9% 3号認定 1,806人/1,867人=96.7%

（3）分析

1号認定区分10%以上の数値の乖離が見られる。

要因としては、計画策定時に「量の見込み」を算定するにあたり、認定こども園化が進み一定の1号認定需要が見込まれるものと判断し、利用実績平均よりも多い数値で見込み値を算定したものの共働化や保育料無償化の影響により想定以上に1号認定の需要が少なかったためと考えられる。

（4）見直しの有無について

1号認定区分10%以上の数値の乖離があるものの、各保育教育区分の実利用人数に対し、園の供給体制（利用定員の設置）が十分に足りており、実状的な弊害は生じない。
 上記の理由に加え、需要値の精査については次期計画策定時に調整することとし、現計画の[中間見直しにおける数値の修正はおこなわないもの](#)としたい。